科目名	治療総論Ⅰ－放射線医学	講師	非常勤講師
履修時期	2年　前期	単位数	1
		時間	30(内12)

＜科目設定理由＞

『治療総論Ⅰ』は、「医療概説」・「放射線医学」・「リハビリテーション」で構成される。

医学の父と呼ばれるヒポクラテスは「病気は人間が自らの力をもって自然に治すものであり、医者はこれを手助けするものである」と語っており、治療や医療行為は人間の身体にもともと備わっている治癒力を助けるものでなくてはならない。すなわち、患者の病態を改善し健康を回復するための医師による行為が治療である。

医学は病気を診断し治療を行うことで、病気を治癒させたり、現在生じている症状を緩和・消失させ今後おこりうるであろう健康問題を低減させる。看護者が対象の自然治癒力を引き出し、回復過程を支援するためには、医師の行う診断・治療についての理解が不可欠といえる。

ここでは、医療における放射線医学の役割を学び、画像診断・放射線治療・放射線防護についての基礎的知識を得ることをねらいとして科目を設定する。

学習目標	医療における放射線医学の役割が分かる。 放射線の種類と性質が分かる。 放射線による障害と防護が分かる。 画像診断の特徴が分かる。 放射線治療の特徴と目的および照射法が分かる。 放射線による有害反応が分かる。
学習内容	＜画像診断＞ 1. 放射線とは 2. 医療における放射線医学の役割 ・画像診断の役割 ・放射線治療の役割 3. 画像診断の特徴（検査で何が分かるか、長所と短所、適応と禁忌） ・X線診断 ・CT ・MRI ・核医学検査 4. 放射線防護 ＜放射線治療＞ 5. 放射線治療の原理と基礎 6. 放射線治療による有害反応 7. 放射線治療の特徴と目的および照射法の種類
授業形態	講義・グループワーク
評価方法および評価の観点	筆記試験の他、出席状況も勘案のうえ評価する
テキスト	系統看護学講座　別冊「臨床放射線医学」 医学書院
参考資料・図書	授業内で適宜提示の予定
履修上の留意事項・受講条件	予習・復習をして受講のこと